

まさかと思われた衆議院解散は電撃的な選挙によって自民党の大勝となりました。

「経済感覚」で今度の選挙を見ますと、①自民党が極めてシンプルなフレーズで「郵政改革、是か非か」で訴えたセンスに反して、民主党は八項目も複雑に並べすぎたようです。国民は難しい説明を嫌って分かりやすいシンプルさを選んだ感があります。経済界においてもこれからのPRの参考にすべきかなと思うのは考えすぎでしょうか？②とかく曖昧な表現の多い政治発言の多い中で、森喜郎氏の解散を止めるようにとの説得に対して「殺されてもいいから解散する！！」と言った度胸・胆力―派閥政治の中ではできなかった勇氣―に国民が喝采を送った結果ではないでしょうか。

小泉さんの度胸のよさは、かつて時の宰相・原敬が東京駅で襲われた時、ボディガードとして最初の一突きを体を張って守った人が小泉さんの祖父（沖仲仕の頭）であり、この血が流れているからと言われています。

「すべての改革が、できるかできないかは郵政改革から始まるのであります―改革を止めてはならない！！」と歯切れのよい啖呵に迫力がありました。今、私たちの経済界―特に中小・零細業界で渴望されているものもまたセンス（先見性）と胆力（決断力）を持ったリーダーであり、店主、社長、商店会に求められています。毎日新聞の岸井さんが「刺客」と呼んだ自民党候補者は従来の派閥、世襲制をぶち壊した人材登用だったと私は思います。今まで松下経営塾の出身者のほとんどが民主党から出馬当選してきたのは、「世襲、派閥」の弊害があったからであります。

新聞、テレビで小泉首相は小説「信長の棺」の通りと言いますが、むしろ津本陽の「霸王の夢」の方が信長―小泉の人物像を明快に描いております。

過当競争を生き抜いて行く方法として人材、部下をどう育てるかを考える上で、「霸王の夢」は一読されることをおすすめしたい本です。

奇しくも自民党も民主党も党内の重点目標は「人を育てる」です。私たちの経済界で膾炙されていることもまた「人づくり、人を育てる」であり、この実践こそが次の世代に生き残る結論だと選挙は教えているようです。

今一つ驚いたことは数字のマジックです。東京での自民党の得票率は凡そ50%、獲得議席23席、民主党得票率37%、獲得議席1席、南関東では自民52%、28議席、民主36%<sup>2</sup>議席でした。どちらを選ぶかの小選挙区の難しさです。経済界もまたイオン・ジャスコか、ヨーカ堂かダイエーかと小選挙区の戦いの様相となって、「勝ち組か負け組か」が「生か死か」を分ける選択の時代を経済界も迎えている様であります。

JR君津駅前のイトーヨーカ堂が撤退の準備をしています。こうした経済環境の激変する状況にあって、この桶狭間のチャンス(?)をどう活かすか、前向きに考え行動を起こす信長が現れることを期待し頑張りたいものです。